

理工系学会連合ウェブサイトの創設

吉田英生（京都大学）

1. 目的

本資料3ページ目「工学系学会連合ウェブサイトの創設に向けて—“Watt & Edison”の挑戦—」（エネルギー・資源 2015年1月号）に記しましたように、理工系学会（や企業）には貴重な記事やウェブサイトが多数ありますが、これらの情報が一般市民には有効に活用されていないように思われます¹。また、それ以前に、そもそも諸学会の存在自体が一般市民には殆ど知られておらず、諸学会はわれわれの意図や願いからはほど遠い閉じた世界になっているというのが実情ではないでしょうか。

そこで、一般市民にこれらの貴重な情報を広く知って活用いただくとともに、理工系学会（や企業）の存在も身近に感じていただくことを目的として、理工系学会合同のウェブサイトを創設し、一般市民が理工系関連情報を調べる際、

・玄関としてまず通過するサイトであると同時に

・厳選した資料や情報源から構成される包括的なオンライン図書館の機能も併せ持つもの

として日本の中心サイトに育てることを目的とします。1981年に創刊された雑誌Newtonは理系の中心的雑誌として大きな成功を収めました。本サイトは工学系に軸足を置き無料で情報提供するところが大きく異なる点です。

2. プロトタイプ試作経緯

このため、小生はまずその具体像を示すべく、プロトタイプとして

- ・2012年元旦にwattandedison.comのドメインを取得し、
- ・2012年7月28日にサイトを立ち上げ（wattandedison.orgのドメインも2012年8月1日に追加取得）、
- ・2015年初頭から、上記エネルギー・資源誌の記事と同期して本格的に増築を始め、日々更新を原則として1年9ヶ月になりました。

この結果、現在では直接的なリンクや記事のPDFファイルだけでも1500近くに達し、学会では機械学会、伝熱学会、土木学会、地盤工学会、電気学会、化学工学会、物理学会など、企業では東京電力、関西電力、東京ガス、大阪ガス、新日鐵、三菱重工業、川崎重工業、IHI、マツダ、鹿島建設、日本航空、朝日新聞社などにもご協力をいただいて、基礎となる形ができてきたのではないかと自負しております。現時点では、100%吉田個人の作業によっておりますので、整理も行き届かず見栄えも不十分ですが、同時に誰にも遠慮せず、やりたいようにやってきた次第です。なお、キーワードで検索するとサイトが再編成されるような自動構成機能も付加できたらとは思いますが、小生の稚拙なHP作成技術ではとてもできるものではないので当面は諦めております。

3. 今回の提案内容

今回提案させていただきたいのは、これまで吉田が個人ベースで進めてまいりましたものを、日本工学会のバックアップのもとオールジャパンの公的なものに発展していただけないかということです。もちろん、現在の掲載記事やリンクは管理人である吉田の好みやバイアスが反映しておりますので、公的な組織によるものとするには、全面的な見直しが必要だとは思いますが、できるならば基本的な構造を受け継いでいただけないかと願っております。

一方で心配いたしますのは、学会連合となった瞬間に種々の議論が噴出し、また責任問題も重要となりますので、それらを調整するだけで莫大な時間が経過してしまうことです。多数の関係者によるバックアップが加わることは文字通り百人力ですが、吉田がこれまで自分の責任において誰にも相談せず関連の学会や個人と随時交渉して進めてきたような機動性は失われるのではないかと危惧します。このため、小生自身はこれまでどおりの Watt & Edison を構築しつつも、並行して学会連合ウェブサイト実現への話し合いを、たとえば土機電化の中心学会で進めさせていただけないかと考えている次第です。もしこの方向性をお認めいただけたら、より具体的な作業手順をご提案させていただきたいと存じます。

¹ 学会員自身も、おびただしい情報に埋もれて同様かもしれません。

目的と編集方針

<http://www.wattandedison.com/setsume.html>

目的とコンテンツ

このサイトは、科学・工学・技術に関して、いろいろなことを知るたのしみやよろこび、一面的ではなく多面的な見方、真理の追究、あらたな創造、問題解決に向けた果敢な行動などのために、個々の人生や社会に役立つ情報を厳選して提供することを目的とします。

この目的のためには、限られた科学技術情報だけでは不十分で、自然と人間社会に関する総合的な理解があつてこそという立場から、対象とする範囲をかなり拡大しています。なお、コンテンツは大別して、記事（図・写真・映像を含む）ファイル掲載と外部へのリンクとから構成されています。（脚注1）（脚注2）

目標とする形態と現在の形態、そしてサイト構築の背景となる考え方

最終目標はおもに工学系学会が連合主導することにより、科学技術情報に関する総合的で信頼に満ちたサイトに育て上げることですが、現時点では管理人

吉田英生：京都大学工学研究科航空宇宙工学専攻教授 info@wattandedison.com

が、いくつかの学会や企業や個人の方々のご協力を得ながら、まずは個人ペースでプロトタイプを試作しています。

このため、取り上げる記事やリンクの選択は管理人の主観によっています。つまり、管理人の目でチェックして、良心的で真剣で有益と判断される場合に積極的に取り上げています。（その内容を管理者が全面的に肯定しているということでは必ずしもありません：脚注3）企業のサイトも多数リンクしていますが、これは宣伝ではなく、貴重な情報の提供元と考えています。

純粋な科学技術情報の視点から、政治性はできる限り排除したいものの、場合によっては不可分となる場合もあるかもしれません。管理人はそのような政治性とは一線を画すように努めたいと考えます。

なお、管理人自身、難民問題については2014年8月に開催した国際会議の実行委員長として関わった経緯もあり、人道的見地からHP上で強く主張しています。当サイトの全体から見るとバランスがわるいことは自覚しておりますが、管理人のビザ対応のまずさから、一人の青年が長崎県の大村入国管理センターに収容されている事実を重く受け止めている次第です。（脚注4）

記事の扱い

記事（部分引用でなく全文対象のPDFファイル）は、原則として、著作権を有する個人あるいは機関のご許可を得たものだけを掲載しております。

他サイトへのリンクの扱い

他サイトへのリンクは、原則として、個人サイトについてはご一報しておりますが、公的な機関や国外の企業については特にお断りせずには張っております。国内の企業については、要許可申請の記載に気付いた場合はご一報しております。

リンク先様のロゴの扱い

左端にあるロゴ（アイコン）は、先方様のご許可を得た場合に限り、一定の条件のもと利用させていただいております。コピー・転用などは認めていただいております。

当サイトへのリンクなど

当サイトご利用上の免責事項あるいは当サイトへのリンクなど、あまり厳密なことはいわずに善意の相互理解でなされることを願っています。

基本骨子の作成日：2015年5月5日（以後、随時更新）

（脚注1）本サイトは、2011年の東関東大震災の反省を機に企画・設計し、2012年元旦にドメインを取得し、2012年7月28日（日本時間）のロンドンオリンピックの開会式中継と同時にテーマソングの“風が吹いている（いきものがかり）”に鼓舞されながら立ち上げたものです。

（脚注2）“工学系学会連合ウェブサイトの創設に向けて—Watt & Edison の挑戦—”（エネルギー・資源 2015年1月）を発行したころから定常的な拡張作業に入りました。

（脚注3）もとより管理者の知識も見識もごく限られておりますので、正しく理解できる範囲もわずかであることは常に自覚しております。

（脚注4）2014年8月大阪入管に収容されていて、RAFIQが仮放免支援していたアフリカの難民の方は、2015年1月に大村入管に移送され、ようやく半年経った2015年7月8日、仮放免され、大阪の支援者のもとで生活が始まりました。

巻頭言

工学系学会連合ウェブサイトの創設に向けて —“Watt & Edison”の挑戦—

Toward Establishment of Website for Union of Academic Societies of Engineering
—Challenge by “Watt & Edison”—

一般社団法人 エネルギー・資源学会 編集実行委員会 委員長
京都大学 大学院 工学研究科 航空宇宙工学専攻 教授

吉田 英生

Hideo Yoshida

(E-mail: sakura@hideoyoshida.com)



4年前の年頭、やはり本誌に巻頭言¹⁾を寄稿させていただきましたが、まさかそのわずか2ヶ月後にあの東日本大震災がわが国を襲うことなど夢にも思いませんでした。高度に進化し巨大化・複雑化した現代文明では、わずかなほころびから生じてしまう人災はほとんど不可避とはいえ、人々の故郷を広域かつ長期間奪ってしまうような途方もない人災が発生したのはショックでした。そして、機械系の熱工学に関係してきた自分の責任と無力さを痛感したことは申すまでもないので、同時に学会の責任と無力さも感じました。事後にいくら事故調査を行ったり今後に向けて提言を行ったりしたところで、2011年にあの事故を未然に防ぐことができなかった事実は変わりません。一方、筆者が最近よく出席するいくつかの学会の理事会での議論は、例外なく会員数の減少をどうやって食い止めるか—そもそも会員のメリットは何か?に始まり、さらなる「活性化」の三文字に行き着きます。つまり、学会は外部(社会)に向けてその専門性に基づいた助言や行動が十分に行えていなかったと同時に、内部(会員)に向けて魅力を失ってきていると言い換えることができると思います。

後者の会員数減少はいたしかたないとも筆者は考えています。現在は団塊の世代の方々引退される時期と少子化に象徴される人口構成の変化もあり、さらに情報入手も種々の手段で行えるので、同学の士との出会いを特に求めるのでなければ学会所属の必要もそれほどないともいえるからです。ですから、会員数減少そのものは学会の財務基盤を脅かさなければ容認してもよいとも思いますが、もし学会の存在感が増すことがないあるいは減少するとしたら、これは由々しき問題だと思うのです。

大学(に代表される教育・研究機関)は、個人の人生との関わりの中で一般市民に日常的に強く意識されています。しかし、その大学に残った教育者・研究者や一般組織の研究者が活動の場とする諸学会の存在は、一般市民にほとんど認知されていないといっても過言ではないと思います。ノーベル賞のような輝かしい成果は個人の功績としてトップの話題の一つになりますが、頂上だけでなく広大なすそ野に相当するともいべき学会がマスコミの話題になることはめったにありません。

学会が社会に関わる重要な側面の一つとして、筆者は日常的な情報提供に強い関心を寄せています。今やインターネットの普及で分厚い百科事典は消え、誰しもがGoogleなどの検索やWikipediaにキーワードを入力するようになりました。そんな中であって、故竹内均先生が日本のナショナルジオグラフィックを目指したといわれる“Newton”は1981年の創刊以来、科学技術情報の普及に大きな貢献をしまし、現在もなお大きな存在感を有しています。一方、筆者が所属する工学系諸学会(本会は工学以外のさらに広い分野を含んでいる希有の学会ですが便宜上この中に含めさせていただきます)を見渡しますと、「中学生がよんでわかる科学雑誌」とも言われるNewtonのような平易で魅力的な記事にはかきませんが、一般市民に広く提供できれば有用で良質な記事は多数あります。

そこで、工学系諸学会で連合して厳選した記事をインターネット上でオープンアクセスにできないかと考えたのが、現在、筆者がプロトタイプを試作中の“Watt & Edison”です。筆者が編集委員として関与した諸学会で既にオープンアクセスになっている(一部は著作権を有する機関の許可を得た)拙記事を中心に、さらに知人の貴重な記事などを協力いただいてアップロードしています。まだコンテンツが少ないので適切な分類整理はできていませんが、もし学会連合で本事業を進めることができれば、このオンラインの書棚は工学全般からなる充実したものとなるに違いないと確信しています。あわせて、厳選した世界中の有益なサイトへのリンクも整備すれば、一般市民が科学技術情報を入力する際にまずアクセスしてみる信頼に満ちたハブとならないだろうか—その意味で「科学技術情報のソムリエ／ソムリエール」という文言も付与しました。そして、副次的に一般市民が工学系諸学会の存在を身近に感じていただけたらと願う次第です。



<http://www.wattandedison.com>

1) 吉田英生：あたかも一身にして多生を経るが如く一人にして多身あるが如し然し，エネルギー・資源，32-1 (2011)，2。